

第3回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

議 事 要 旨

■ 日 時：令和4年2月7日（月） 14：00～16：00

■ 場 所：Web会議形式（Zoom）

■ 議事要旨

1. これまでの経緯について

- (1) アクションプラン策定経緯、および前回協議会・WG議事要旨の確認【資料1】
- ・アクションプラン策定までの経緯と概要、昨年度実施の前回協議会及び今年度実施のWGの議事要旨について確認を行った。

2. 荒川流域エリア・アクションプランの推進について

- (1) 令和3年度協議会活動結果のご報告【資料2・3】
- ・アクションプランに関する取り組み結果の説明を行った。
- (2) 令和3年度地域関係者における取り組み事例のご紹介
- ・鴻巣市によるコウノトリ野生復帰の取り組み及び荒川上流河川事務所による多様な生物の生息場づくりの取り組み等について紹介した。
- (3) 今後の取り組みについて【資料2】
- ・令和4年度協議会活動計画（案）について確認を行った。
 - ・次年度以降の協議会の活動について意見交換を行った。

3. その他

- ・協議会の英語表記案について確認を行った。

■ 配布資料

- ・議事次第／出席者名簿／規約・委員名簿
- ・資料1 これまでの経緯（前回議事概要）
- ・資料2 荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和3年度結果・令和4年度計画案）
資料2（別冊 詳細版）令和3年度 取り組み結果・令和4年度 取り組み計画（案）
- ・資料3 広報資料集（令和3年度に作成したコウノトリ紹介用ポスターなど）
- ・荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン

■出席者

構成	氏名	団体名等
学識経験者	浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授
	高木 嘉彦	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長
	日橋 一昭	(公財)東京動物園協会 参与
関係自治体	原口 和久	鴻巣市長
	三宮 幸雄	北本市長
	宮崎 善雄	吉見町長
	武藤 聡	桶川市 市民生活部 環境課長
関係行政機関	森田 梢	埼玉県 環境部 みどり自然課 主査
	宮島 陽一	埼玉県 農林部 農村整備課 主任
	佐野 正明	埼玉県 県土整備部 河川環境課 副課長
	羽澤 敏行	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課長
	大東 淳一	国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所長
オブザーバー	夏目 知貴	行田市 環境課 主事
	橋本 潤二	農林水産省 関東農政局 農村振興部 農村環境課 環境保全官
	鈴木 真野	環境省 関東地方環境事務所 野生生物課 鳥獣管理・感染症対策専門官
事務局	米沢 拓繁	荒川上流河川事務所 副所長
	鬼頭 岳彦	荒川上流河川事務所 河川環境課長

■ 議事内容

1. これまでの経緯について

(1) アクションプラン策定経緯、および前回協議会・WG 議事要旨の確認

○ 事務局

【資料1】 これまでの経緯（前回議事概要）について説明

→意見なし。

2. 荒川流域エリア・アクションプランの推進について

(1) 令和3年度 協議会活動結果のご報告

○ 事務局

【資料2】 荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和3年度結果・令和4年度計画案）

のうち令和3年度の取り組み概要（主な活動結果）について説明

○ 浅枝座長

ゴミ問題は、生物多様性への影響から、COPで二酸化炭素の問題よりも議論されている課題である。

荒川のプラスチックゴミは、やがて東京湾に流れていく。そして海洋ゴミになる。海洋ゴミは最近ではマイクロプラスチックやナノプラスチックといった小さなものまで対象にされるようになった。それらが生物濃縮するということは、我々はもうマグロも食べられなくなるかもしれない。生息数が少なくなるからではなく、汚染され食べられなくなるかもしれないといった課題もある。

実はこのような課題は、様々な国で経済価値が非常に高い活動になっている。それが国際標準になりつつあり、荒川流域エコネットもそういった形に発展できればと思っている。

(2) 令和3年度 地域関係者における取り組み事例のご紹介

○ 鴻巣市

【画面共有資料】 鴻巣市・コウノトリの里づくり事業について説明

○ 浅枝座長

鴻巣市では、例えば「コウノトリの里づくり都市」といったような宣言などのPRは考えておられないだろうか。

○ 鴻巣市

これからコウノトリにちなんだキャッチフレーズなどでPRをしていきたいと思っているが、もう少し環境基盤を作っていきたいと思っている。その際には是非先生方のご支援を拝借できればありがたいと思う。

○ 事務局（荒川上流河川事務所）

【画面共有資料】荒川上流におけるコウノトリ等の多様な生物の生息・生育場づくりの取り組みについて説明

○ 浅枝座長

国は水害対策の政策を流域治水へと転換をすすめているが、これは世界的な取り組みである。海外では今、Nature-based solutions（NbS：自然に根ざした社会課題の解決策）といった言葉が使われており、「NbSをどうしますか」といったことが話題に上がりつつあることが、問題解決の方法と考えられている。しかし、流域全体で治水を考えるとという話題は、これまでなかなかできなくなっていた。

治水の考え方が変わってきている。日本の流域治水・日本流の Nature-based solutions を、もっと海外にアピールしていかなければいけない。

荒川は川の幅が広く、東京に近い。川として重要な位置にあると考えられる。荒川エコネットには非常に重要な役割があるということを考えておいてほしい。

そういったことを市や町のキャッチフレーズにさせていただいてもいいと思うし、そうした形で海外に発信していただきたいと感じている。

（3）今後の取り組みについて

○ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和3年度結果・令和4年度計画案）のうち令和4年度協議会活動計画（案）について説明

○ 高木委員

SNSで情報を集めるという話が出てくるが、エコネット自体がプラットフォームになり得ないだろうか。

一般の方々がエコネットのホームページにアクセスすればどこでどんなことをやっているとかそういう部分が見えるような取り組みは計画されているのかをお聞きしたい。

○ 事務局

現時点では、プラットフォームとして環境の情報を発信する取り組みやその準備というものは実施していない状態である。

来年度予定しているSNSでの情報収集の成果が、協議会関係者の情報発信のプラットフォーム整備につながることを目指して行きたい。

○ 高木委員

情報収集だけではなく、発信していかないといけない。先ほど浅枝先生からも海外への発信というお話があったが、そのためにも、一般の方々がアクセスすれば簡単に我々の取り組み一つ一つが分かる形に作ると、もっと取り組みが広がっていくのでは

ないかと思う。

○ 浅枝座長

海外の人が日本に来る時、半日ほど時間が空くと大体はインターネットで行き先を探しているため英語での紹介もあると海外からのお客さんも呼び込める。ぜひ積極的にお願いしたい部分である。

○ 鴻巣市

荒川上流河川事務所で湿地を整備していただいております非常にありがたい。吉見町と鴻巣市の境付近に明秋・釜虎という旧河道がある。ここはまだ自然が残っている場所で、何か活用できるのではないかと考えている。市や町で調査するという事はなかなか難しく、ぜひ荒川上流河川事務所に調査をしていただきたい。何かいいアイデアとか、あるいは事業計画などを作っていただけたらという思いである。

○ 事務局

明秋・釜虎の付近の環境がどういう状況かという点はまだ詳細に確認できておらず、鴻巣市よりご発言いただいた点も含め改めて状況を確認したいと思う。

○ 浅枝座長

鴻巣市には鴻神社を始め様々な寺社がある。そういった歴史を感じさせるところもうまくエコネットに取り込んでいただき、その場所に関する説明を立て札などで現地で分かるようにするといい。そうすると訪れた方が今の状況だけでなく過去の状況にも思いを馳せながら見ていただける。それはすごく重要なことだと感じている。

○ 鴻巣市

桶川市～北本市～鴻巣市と、中山道を歩いていらっしゃる方が多い。鴻巣市も非常に古い歴史のある古刹がある。そうしたところとの連携は非常に重要であると思っている。ネットワークを作りながら、コウノトリも合わせてこの地域に訪れてもらえるような取り組みができればと思っている。

コウノトリのブームもあり、鴻神社には非常に多くの来訪者がいる。子宝・安産祈願の「コウノトリのたまご」もある。

鴻神社と「コウノトリ」という連携をすることもこれから重要であろうと思っている。

○ 北本市

明秋・釜虎は荒川の旧河道のことだが、実は明秋・釜虎は江戸図屏風の中に登場しており、三代将軍が度々鷹狩りに来て、川ざらいをして魚を捕っている様子が描かれている。

(北本市は)吉見町や鴻巣市と地形的・地理的に繋がっている。明秋・釜虎について

も、歴史を掘り起こしていただきたいなということを感じた。また、生物多様性は今回のキーワードになっていくと思うため、その視点からエコネット地域づくりをしていていただきたいという感想を持った。

その上で少しお話をさせていただきたい。昨年の会議において、コウノトリが飛び交う環境を取り戻す方策として、私の方からいくつかお願いを申し上げた。

1つ目は荒川流域の自然の豊かさを高めるための荒川旧河川の保全再生と、北本市に特にある崖線の斜面林の再生についてお願いした。

今から 25 年前に市内の動植物の総合調査を行い、「北本の動植物」という本を刊行した。またビジュアル的なものとして「谷津物語」として、荒川の河川敷コースや蓮沼コースのような形でハンドブックとして出した。

明秋・釜虎と同じようにつながっている蓮沼という旧河川は、ヒシ等が大変豊かで、関東初記録のコバンムシをはじめ、オオモノサシトンボやベニイトトンボなど、レッドデータブック中の貴重な水生昆虫や蜻蛉類がたくさん生息していた沼だった。特に一番興味を持ったのは 30 年間埼玉県で確認されていなかったトラフトンボというトンボが蓮沼で確認された記録があること。ところが、この 10 年ほど前から、かつての面影がないほどに自然が失われている状況である。ぜひコウノトリの住まう環境という点でも、旧河川の再生を真剣に考えて欲しいと心から願っている。

また、二つ目として、市内には埼玉県自然学習センターがあり、国が整備した荒川ビオトープと合わせると約 60 ヘクタール以上の日本最大級のビオトープがあり、台地上の谷津の環境や河川敷と一体となすものであるが、自然学習センターと取り組みをぜひ連携し、成果を上げることをお願いした。

さらに三つ目は、エコネットを進めるためには何よりも住民の参加連携が重要なポイントになるという点。しかしコロナ禍ということもあり具体的な取り組みが見えておらず、現在の状況と今後の見通しについてご返答いただけたら幸いである。

北本市は昨年 11 月 3 日を以て市制 50 周年を迎え、それを記念して北本市の豊かな自然を象徴する市の野草・野鳥・昆虫を制定した。これは、北本市のローカルブランドを磨き上げて街の未来を作っていくことでありまちづくりそのものである。そのため、これを決めたから終わりでは全くなく、これからスタートである。ぜひこのあたりについても、アイデアをいただきたいと思う。

市の野草であるカタクリについては大宮台地唯一の自生地と言っているくらいであり、株数で言えば、3~4 万株、花が咲くのは 5000 株ほどと確認されている。また、市の昆虫であるヘイケボタルについても、里山のホタルがいなくなっている中で北本市自然観察公園のホタルの数はかなり多く、遠くは神奈川、東京、千葉、群馬からも人が観察に来ている状況をぜひまちづくりに活かしていきたいと思う。

冒頭でお話した三点のお願いについて、現在の状況のご返答をお願いしたい。

○ 事務局

斜面林については、湧水環境と合わせて調査を行っており、成果がまとまったら紹介できたらと考えている。

旧河川の活用に関しては、太郎右衛門自然再生地や三つ又沼ビオトープで引き続き

良い環境を目指して活動を行っている。

明秋・釜虎や蓮沼、吉見町周辺については今後調査を踏まえて考えていきたいと思っている。

二つ目の学習センターについては、コロナで連携が難しかったため、ロゴマークの投票で場所をお借りして、学習センターに訪れる方にエコネットをまず知ってもらった。

子供を集めての環境学習なども予定はしていたが、コロナで実施には至らず、今年度は学習教材の作成などの準備にとどまった。来年度以降、子供たちにも見てもらうような学習教材を使ってさまざまな取り組みを進めていけたらと考えている。

○ 北本市

コロナ禍で本当に大変だったと思われるが、自然再生というのは1日2日、1年2年でできることではないため、10年のスパンの中で再度蓮沼を気に留めていただきたい。特に蓮沼は周辺をエノキやクヌギなど河畔林が覆っており、水際にヨシなどの抽水植物があり、水面にはヒシ等の浮葉植物がある。また水中にはクロモなどの沈水植物があり、見事にエコトーンが形成されている状況の中で、「少し怪しい沼地」になってきた部分がある。

是非その辺のデータ分析も含めて、北本市にやってほしいことがあれば教えていただきたいし、国の河川であるため、いろいろと教えていただきたいと思う。

北本市には石屋下という旧河川の沼があり、連日釣り人でにぎわっている場所がある。桜並木があり、沼の上流には横田薬師堂の湧水群という「はけ」の湧水点があって、市内でも有数の湧出量を誇っている泉がある場所である。

しかしながら、連日訪れる釣り人により沼の水質がひどく富栄養化しており、この沼が自然観察公園と荒川ビオトープとの間に位置することを考えると、釣り人とうまく協和し、あるいは制限し、湧水を活かしたビオトープとして再生することはできないかと考えている。隣接ビオトープの自然環境の価値が上がるものと考えているため、是非石屋下の再生計画もアクションプランに加えていただきたい。

また、北本キャンプフィールドと水辺プラザの間にヨシが繁茂する休耕田がある。最近ではヤナギ林への転移が進んでおり、自然を活かした施設の間でありながら、現状では危険な場所となっていて、地域住民からも10年以上前から田んぼの再生が望まれている状況である。農地としての契約があると思われるが、現状では全く農業が行われず、農地が迷惑施設のような状況になっている。

周辺にある高尾さくら公園・北本キャンプフィールド・水辺プラザの魅力を高めるためにも、この休耕田をコウノトリの餌場や体験型の水田として、湿性植物保全区域として整備すれば、周囲のグリーンインフラとしての価値が飛躍的に高まるものと考えている。

北本市単独で実施しようとも考えていたが、やはり難しいと感じた。そうした意味での地域の課題を出しつつ、エコネットに資するような計画をぜひともアクションプランに加えていただきたい。

○ 吉見町

明秋・釜虎や蓮沼の話が鴻巣市と北本市から出たが、元荒川の最上流にはひょうたん池と呼ばれる場所があり、釣り人の方が環境整備をしてくれているようだが、そこから下流に行くとだんだん倒木が多くなる。昔、自分たちが小さい頃に昆虫を取りに行ったりしていたような環境とはだいぶ変わってきた気がしている。本当に自然が残っているいいところなので、ぜひ今後、荒川上流河川事務所や鴻巣市・北本市・吉見町と、皆さんで意見交換ができればと思う。

鴻巣市でコウノトリ野生復帰センターが完成したが、ぜひ2羽のコウノトリに吉見町の空も飛んでほしいと思うし、コウノトリに嫌われるようになったら困るなど思っている。

吉見町にも八丁湖公園など自然が豊かなところがあり、その東側に走る横見川については荒川上流河川事務所の協力をいただきながら河川の浚渫をここ数年行っている。

河川は整備するだけで、その後の維持管理・機能性アップをなかなか図れていない。どの河川でも浚渫するとゴミが結構出てくる。せつかく事業債を使って河川の機能アップをしたので、この状態を維持できるようにこれからもやっていきたいと思っている。

また、吉見町の東地区でジャンボタニシが大発生しており、繁殖率が非常に高いため、吉見町の病害虫防除協議会で補助金を出しながら駆除を行っている。

広報資料にもあるが、オオキンケイギクはなかなか綺麗で、わざわざ抜いた上に植えている人も実はいる。オオキンケイギクについて、吉見町でもホームページや全戸配布で啓発しているが、どんどん啓発をしていかないと外来生物であり生息力が強く繁殖してしまう。

「一つの町がやればいい」というわけではなく、全ての自治体で取り組むことによって、自然環境の維持ができると思う。

市野川では毎年クリーン作戦でゴミ拾いをしているが、まだまだ不法投棄が減らない状況であり、パトロールの強化をしている。

近隣と意見交換をしながら環境面について今後もしっかり取り組んでいきたいと考えている。

○ 浅枝座長

ジャンボタニシは、調理方法などは無いのだろうか。

○ 吉見町

かつてジャンボタニシを食材にするため養殖を始めた人がいるらしいが、商売にならなかったため放流された。

通常、冬場は田んぼに水を張らないが、現在は水を張って石灰窒素を散布し、耕耘してジャンボタニシに冬を越させないようにしている。石灰窒素の粒剤の購入費を協議会で出している形である。

また、春から夏にかけて水路の端にピンク色の卵を産むが、これを水路に落としている。これを粘り強くやるしかないと思っている。

○ 桶川市

コロナ禍ということで非常に活動に不便があったかと思うが、さまざまな活動を取り組んでいただいたのかなと思っている。

7月の生き物調査体験会に参加した。非常に暑い中ではあったが、興味深い活動であった。ぜひ次回はお子さんが参加できるような体勢で取り組めると非常に良いと考える。

令和4年度以降の取り組み計画について、生物データの整理を行っていただければ、そうしたものを活用して市の計画等に反映させていければと考えている。

桶川市でも例に漏れず外来種対策が非常に重要となる状況になっている。アライグマやオオキンケイギクがかなり広がっており啓発広報を行っているが、一般の方にはなかなか知識が深まっていないところもあり、有効な対策を考えていけたらと思う。

また、観光・地域振興の面では、荒川流域近辺の施設として令和2年8月に桶川飛行学校平和記念館という施設を開館しており、また、道の駅も近辺に整備を進めている。こうしたところを観光面で活用できるように、生物が豊かであるアピールといった部分も今後検討していきたいと考えている。

今後も桶川市としては、このような場での意見交換や生物環境の保全に関する活動を進めていきたいと思うのでお願いしたい。

○ 浅枝座長

いわゆるコロナ禍で活動があまりできていないというが、これをうまく逆に利用できないかなと考える。コロナ禍で働き方が変わってきており、自宅で仕事などをすることが増えた。そういった時に何が一番重要になるかといえば、息抜きである。花札で、小野道風が傘をもって歩いている絵柄をご存知と思われるが、あれは小野道風が一生懸命書道の練習をしていて、息抜きに外を歩いてたらカエルが一生懸命柳に飛びつこうとしていた、というのが花札の絵となっている。

自宅で様々なことをする機会も増えてきて、生活パターンをゆとりあるものに変えていきたいと思いますといった取り組みもあるので、まわりの自然が非常に重要な意味をもってくると思う。

日本人は、昔はとにかく「働け働け」で「残業残業」だったが、そういう時代はもう過ぎた。そうした動きもあっていいのではという気持ちで聞かせていただいていた。

○ 埼玉県 環境部 みどり自然課

令和3年度の取り組みで紹介頂いたデジタルサイネージ用の動画はちょうどいい長さでとても使いやすく、様々なところで折に触れて広報・普及啓発で使っていききたいと思えるような動画だった。

また、鴻巣市のコウノトリ野生復帰センターの一般公開が始まって2日間で2000人の方が来られたと伺って、関心の高さに驚いた。

7月22日に実施された生き物調査体験会に参加させていただいた。残念ながらお子

さんは参加できなかったが、もしお子さんが参加できたらとても喜ばれ、自然に興味を持ってもらえるきっかけになったと思う。これからも続けていただきたいと思っている。

生物多様性について、世間の関心の低さが問題となっている。普及啓発を通じて、皆さんの関心を少しでも高めて、意識を向けていけたらと思う。

○ 浅枝座長

現在では、観察会みたいな場面では「見るだけ」となっている。希少種は持って帰られると困るが、そうじゃないものは持って帰って飼ってもらおうというのはどうだろうか。我々が子供の時は様々な生き物を連れ帰り飼っていたが、そうした中から自然や生き物に対する愛着が出てくる。そして放っておけば死んでしまうため、死なせないように頑張るといった感覚も生まれてくる。そういった教育の仕方であってもいいのではと感じているがいかがだろうか。

○ 埼玉県 環境部 みどり自然課

実際に飼育体験したり、または触れてみるだけでもお子さんたちは興味関心が高まると思う。

○ 埼玉県 農林部 農村整備課

協議会の取り組みとして、流域共通マップの作成をしたと紹介があった。Google マイマップを使って作成したとのことで、いいアイデアだなと思ったが、作成したマップを公開する予定などはあるだろうか。

○ 事務局

現在は、事務局でインターネット上から名所などの情報集めて入力している状態であり、自治体のご意見なども踏まえて、最終版を作りたいと思っている。流域の環境や観光に関する地図として公開したいと思っている。

○ 埼玉県 農林部 農村整備課

公開していくのはいいアイデアだと思う。先程、「コロナ禍だからできることがあるのではないか」と意見も出ていたが、コロナ禍では（散歩などで）外を歩く人が増えていると思われる。農村整備課でもマイマップを利用して案内を作っている。コロナ禍で皆さんがスマホ片手に歩いているが、難しいことは分からなくても例えばカーナビのように一元的に「ここにこういうものがある」と分かると、興味を持ってすぐ歩いてくれる。そうした意味では、県民の理解を得やすいのではないか。マップが出来たら様々なところで公開していくのが良いと思う。

「ここにこういうものがあるんだな」と様々な人に見てもらえれば、理解も得やすいと思う。

他の方の話題にもあった公園や沼、ため池などの自然が残っている場所も積極的に

組み込み、そこから飛び火して多くの人に興味を持ってもらえることが、協議会の取り組みの意味ではないかと思う。

○ 浅枝座長

マイマップには著作権のようなものはない形だろうか。

○ 埼玉県 農林部 農村整備課

自由に作って公開できるというイメージである。

○ 浅枝座長

情報をコピー・ペーストして他にも展開できるようにすると便利になる。

是非、利用者がうまく利用できるというようなことを考えていただきたい。

○ 埼玉県 県土整備部 河川環境課

ごみ問題については、ボランティア団体に河川クリーン活動を行っていただいております、支援を行っている。

協議会に参加している自治体からは1市2町・6団体・1363人の方に登録いただいて、ゴミ拾い等の環境活動に協力いただいている状況である。

県としては、備品の軍手やゴミ袋の支給や、ボランティア保険加入の支援をしている。

平成16年度から長く活動を行っているが、昨今のコロナ禍の中でなかなか活動が進んでいない状況である。また、活動される方の高齢化が進んでおり持続性に問題がある。自治体に協力をいただき、学校の環境学習といった機会においてゴミ問題についても取り上げていただき、担い手が増えれば、今後も環境活動を継続できると考えている。

ほかにも、地域振興・経済活性化の取り組みに関して、「水辺空間とことん活用プロジェクト」を行っている。地元の市町村に河川の観光的なスポットを占有してもらい、キャンプや水辺のレクリエーションなどの整備を民間事業者も含め行い、地域活性化につなげるという形で進めている。このプロジェクトについては、協議会の参加自治体では実績が無いが、現在、県内12箇所で行っていることから、活動を広げ、官民連携して河川環境の保全ができればと考えている。

自治体や地域の方々に協議会に入ってもらい、地域の方々の意見も聞いた上で、官民連携で取り組みができるというような形でいろいろ取り組んでいる。

こういった取り組みが協議会の参加自治体でもできればと考えている。

今後連携して行っていきたいと思う。

○ 浅枝座長

ゴミ問題に関して。「海洋ごみ」について、埼玉県民の方は「埼玉県は海に面していない」と考えたりするが、荒川のプラスチックごみは全部東京湾に流れて行く。

プラスチックごみについては、魚の生息量よりも多くなっていずれ魚がいなくなり全部プラスチックごみに変わるという試算もある。

そういった背景があって、プラスチックごみに対する意識というのは、実は様々な国で非常に高くなっている。特にヨーロッパでは、例えば歩いていてプラスチックごみを見つけたらすぐに拾う、というような感じになっていたりする。

日本においてはプラスチックごみ、特に最近はマスクが捨ててあることが多いが、それは実は大変な問題であり、防いでいくことが我々の重要な仕事であるという形にしていかなければならない。そのような取り組みをより大きな規模で行うといいのではと感じた。

整備局の方でもそういったことに取り組んでいるようだが、いかがだろうか。

○ 国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課

河川環境課では関東エコネット推進協議会の事務局を務めているが、今度の協議会では基本方針の改訂について審議いただきたいと思っている。従来の取り組みに加え、新たに流域治水やグリーンインフラの考え方を追加して計画を改訂していきたいと考えている。

10年ほどエコネットの取り組みを続けているが、流域の皆様方の努力により成果が上がってきている。今後は「流域の取り組み」が非常に重要になってくると考えている。

今までは川の中で活動している部分があった。河川に関する活動も引き続き行うが、流域治水に向けて一段階フェーズが変わっていく気がしている。

関係者間ではコウノトリやそれに関する取り組みは周知されているが、市民の皆さんにはどれほど知っていただいているかという点が気になっている。広報のあり方にも力を入れていかなければならないと思う。

従来からコウノトリの放鳥・採餌環境の整備・地域振興という三本の柱で進めてきたが、今後は地域活性化が非常に重要になってくると考えている。今後とも流域の皆さんの協力が必要になってくると考えているため、是非よろしく願いたい。

○ 荒川上流河川事務所 大束事務所長

今回皆様のご意見を伺い、特に地域の関係自治体の皆様の強い思いというものをたくさん聞かせていただいたということが印象に残っている。同時に、多くの課題があるということを改めて認識した。

荒川の川づくりに関しては、治水・環境・利水を目的に川づくりを進めてきた。今日お聞きした旧河川の問題については、多くの関係者の調整があるということを改めて認識した。

また、本局の話にもあった通り、流域全体で考える必要がある問題があるということも改めて認識した。

川づくりを考える上では、川づくりをすることイコール地域づくりという気持ちで進めてきていたが、逆に地域づくりが川づくりになるとも考えられる。流域治水や流域の環境という視点でぜひ地域の思いを形にする上で、調査・対策について協力連携

しながら考えていきたい。

また、持続可能な取り組みにして行く上では地域の方々の参加が大事になってくる。実際に地域で活動していただいている・いただける方の協力もいただく必要があると思う。

そういう意味では広報や情報発信の取り組みはまだまだこれからという部分があるが、引き続き取り組みに力を入れていけたらと思っている。

○ 浅枝座長

この活動はどうしてもコウノトリをシンボルとした形になっており、自然環境という言葉がクローズアップされるが、特に日本の自然環境はいずれも人間の営みがあって作られている環境であるということは考えていくべきだろうと自治体の方の意見を伺っていて思った。

「環境」という言葉は、自然環境をイメージさせる部分が多いが、それだけではなく文化や歴史も含めた形で取り上げていくといったことが重要ではないかと思う。

そうすると、特に年を召した方は、「私は生き字引なんです」と自信をお持ちの方も非常に多いので、ぜひそういった広がりを持っていけたらと感じた。

3. その他

(1) 協議会名の英語表記最終案の確認

○ 事務局

【画面共有資料】協議会名の英語表記最終案について説明

→委員より異論なし。

○ 浅枝座長

特に地域振興に結びつけていくときにはやはり英語表記などで海外へアピールしたい。国内向けではいずれも似たような風景景観の場所になってしまう。海外にはスイスのルツェルンという場所があるが、日本人にとってはぜひ行きたい観光地である。しかしそこに住んでる人は「もうこんなのは飽きた」「ぜひ日本に行きたい」と言われる。

ぜひ海外に向けた目線で考えていただき、先程説明のあった英語表記をうまく利用していただくといいのではないかと思う。

例えばコウノトリは欧米では赤ちゃんを運んでくる鳥と云われており、非常に意味が深い。欧米のコウノトリは日本のものと少し種類が異なるが、それが羽田空港からすぐ近くで見られますよ、といった形の広報にも、うまく利用していただければと思う。

閉会の挨拶

○ 荒川上流河川事務所 大東事務所長

アクションプランの活動報告をはじめ、情報交換や意見交換と大変有意義な時間を

過ごさせて頂いた。

エコネットの形成・賑わいや魅力のある地域づくりのために地域が連携して持続的に取り組みを進めて行くことが重要と認識し、本日のご意見やご指摘を踏まえて我々事務局もしっかり対応して行きたいと思う。

ぜひ参加の皆さんにおかれても引き続き活動へのご協力をよろしくお願ひしたい。協議会がますますより良い活動に発展することを祈念し挨拶とさせていただきます。

以 上